

## 大阪大学外国語学部外国語学科 フランス語専攻紹介



海外交流

川北 恭子<sup>\*</sup>, 藤平 シルヴィ<sup>\*\*</sup>, 高階 早苗<sup>\*\*\*</sup>

Osaka University : School of Foreign Studies : French Section

Key Words : french

### 1. フランス語の国際性

フランス語は、中世の時代より現在まで、芸術や思想を生み出す支えの言語として、ヨーロッパ文明において重要な役割を担ってきました。文学では中世の「ロランの歌」などに代表される叙事詩や叙情詩から、スタンダール、フローベール、プルーストなどの近現代の小説にいたるまで、世界で他に類を見ない多様で豊かな創造的世界を生み出しています。哲学者のデカルトや、ルソー、数学者でもあるパス

カルといった名前もご存知のことと思います。フランス語で書かれた文学作品や哲学書は膨大な数に及びます。またフランス語は、ベルギー、スイス、ルクセンブルグ、カナダのケベック州といった欧米諸国では母語(英語 mother tongue, フランス語 langue maternelle)として用いられています。更に、モロッコ、アルジェリア、チュニジア、カメルーン、コートジボアール、コンゴなどのアフリカ諸国や国連をはじめとする国際機関においては公用語として用いられています。また、万国郵便連合の公用語もフランス語であり、「航空便」を意味する par avion という文字が伝統的な航空郵便の封筒にも記載・貼付されることも多く、郵便封筒の縁取り自体が青赤白のフランス国旗の色でもあります。このように世界各地で話され活用されているフランス語は、日本では義務教育の段階で学び始める英語に加えて、高等教育で第2外国語として学ばれることが多いのが実情です。この第2言語として学ばれているフランス語を、我々外国語学部フランス語専攻では、第一言語として教育しています。このことは、英語圏から語られることの多い世界を別視点から捉え、視野をさらに広げ、多種多様な人種・民族・国家をよりよく理解し、現在の世界における複合的事柄に対してより柔軟に対応し、よりの確な判断を下していくことに繋がると考えています。



<sup>\*</sup>Yasuko KAWAKITA

大阪市立大学大学院文学研究科後期博士  
課程単位取得退学  
現在、大阪大学 言語文化研究科 准教授  
文学修士 フランス語学  
TEL : 072-730-5178  
FAX : 072-730-5178  
E-mail : yasuko-k-a@lang.osaka-u.ac.jp



<sup>\*\*</sup>Sylvie FUJIHIRA

ブルゴーニュ大学人文学歴史専攻修士  
現在、大阪大学大学院 言語文化研究科  
准教授  
TEL : 072-730-5170  
FAX : 072-730-5170  
E-mail : sylvie@lang.osaka-u.ac.jp



<sup>\*\*\*</sup>Sanae TAKASHINA

神戸大学大学院博士課程文化学研究所修了  
現在、大阪大学 言語文化研究科 准教授  
学術博士 フランス文学  
TEL : 072-730-5352  
FAX : 072-730-5352  
E-mail : takasinas@lang.osaka-u.ac.jp

### 2. フランス語専攻紹介

では、フランス語専攻の簡単な歴史と、現在の構成・教育を紹介しましょう。

フランス語専攻は、元々1921年創立の大阪外国語学校で9語部の内の1つとして教育され始めました。その後発展を遂げ、1949年に大阪外国語大学となり、2007年に大阪大学と統合し、現在の外国語学部外国語学科フランス語専攻となりました。

フランス語専攻の教育は、阪大の教員6名(言語文化研究科、文学研究科、世界言語研究センター所属に所属)および非常勤講師がそれぞれの専門領域を生かし行っています。

学生数は、定員26名ですが、会話等の授業では2クラスに分かれ、約13~15名の少人数での効率的なきめ細かな授業を行っています。1年生では、初級文法が週2回、講読、LL(ラボ)及び会話のクラスが各々1回で計5回あります。まず基礎文法を学び、講読のクラスで文法知識の理解をより一層深めると共に、読み書きの力を養い、会話やLLのクラスでは、勿論フランス人教員の指導の元で、日常会話を習得すると共に、発音とヒヤリングの指導・矯正が行われます。2年生でも、同様に週5回(中級レベルの文法・講読・作文・LL・会話)の授業があります。この2年間を通じての週5回の授業を実践している結果、2年生が終了した段階で「実用フランス語技能検定試験」の2級に合格する学生もいる程で、我々としても満足しています。また、上述の専攻語実習と共に、文化の理解を深めるために、「フランス研究入門」の専攻講義も準備されています。3年生からは、上級会話や作文の授業のみならず、フランス語関連の文学や言語学・思想・歴史・経済・政治等、専門の講義や演習、そして最終年度には学生の希望テーマによる卒業論文作成が続くことになります。

### 3. 学術交流協定校への留学

フランス語専攻の学生の約半数が半年~1年の長期留学でフランス語圏の国々に留学しますが、大阪大学と学術交流協定を結んでいる大学に留学する場合と、語学学校へ留学する場合があります。学術交流協定には大学間のものと部局間(学部・研究科間)のものがあり、前者にあたるフランスのグルノーブル大学連合(ジョゼフ・フルニエ大学他4大学)、ストラスブール大学連合(ルイ・パスツール大学他3校)、ベルギーのルーヴァン・カトリック大学の各大学、もしくは大学連合に、毎年1~5名の学生が学内で選出され派遣されています。フランス語専攻の学生も毎年4~5名程度がこの制度を利用して留学しています。一方外国語学部が主体となっているものは、フランスのプロヴァンス大学、リール政治学院、トゥールーズ・ル・ミライユ大学の3校で、



毎年厳正な審査の上、2名ずつ学生を送っています。語学学校への留学とは異なり、フランス人の学生とともに専門の授業を履修し、課題をこなさなくてはならないので大変な努力が必要ですが、学生達はいくつかの単位を修得し、帰国後それらの多くは大阪大学の単位として認定されています。この制度を利用して3年生の10月から4年生の7月までを留学期間にあてれば、4年で大学を卒業することも可能ですが、実際には就職活動のために学生達はもう一年在学し、5年かけて卒業しているようです。

数ある協定校の中でもフランス語専攻と関わりが深いのは、部局間協定を最も早く結んだプロヴァンス大学で、学生だけではなく教員の半数以上がプロヴァンスの町を実際に訪れています。大学のあるエクサンプロヴァンスは地中海に近く温暖で風光明媚な町で、中世の町並みの残る石畳の上に身を置くだけで、フランスの文化に溶け込んでいるような気分になります。週末には印象派画家セザンヌの絵で知られるサン・ヴィクトワール山へハイキングに行くこともできます。学生達は大学で文学や社会学などを学ぶ一方、ボランティア活動や市民団体運営のスポーツや工芸などのイベントにも積極的に参加しており、議論好きのフランス人、しかも同年代はもとより幅広い年代の人々と意見を交わすことで、問題意識を持つようになって帰ってくる学生が多いと感じられます。

### 4. フランス語の成立と基礎知識

現在のフランスは、ガリア(ゴール)と呼ばれる広大な地域の一部でした。このガリアには、ケルト系のガリア人が住みガリア語が話されていました。ところが、紀元前50年頃のカエサルによる遠征のため、ローマ帝国が拡大され、ガリアはローマ化・

植民地化され、ガリアではラテン語が徐々に定着していきました。しかし、紀元4世紀頃からローマ帝国の勢力が衰退するのに伴い、ガリアで用いられたラテン語は、地理的にもローマから離れているので独自の变化を遂げてしまいます。更に、4～5世紀頃ゲルマン民族の大移動によってガリアは征服されますが、ゲルマン民族は征服者でありながらも、ローマの文化を継承し、自らの言語を捨てガリアで話されていたラテン語を話すようになります。このようにして、現在のフランス語は、「基層ガリア語 + 表層ラテン語 + 傍層ゲルマン語」から成り、イタリア語・スペイン語・ポルトガル語・ルーマニア語等からなるロマンス語派の1つとなっています。このロマンス語派の中で最も早く独自の言語で書かれた文学書が現れるのがフランス語であり、9世紀のことでした。

さて、フランス語の文法に話を移しましょう。名詞には男性名詞と女性名詞があり、男性名詞には男性用の冠詞や形容詞、女性名詞には女性用のものが付きます。英語では3・単・現の Sを除いて動詞活用らしいものはありませんが、フランス語では主語人称代名詞によって動詞が活用されます。但し、動詞の9割が規則動詞で活用も規則的であり、

かつ発音においては3種類しかありませんので、思うほど難しくありません。構文は基本的に英語同様「主語・動詞・目的語」の順です。但し、目的語が代名詞化されると動詞の前に置くという規則はありますが、これは「旧新の原理」に則って、代名詞化されるということは古いものということなので動詞の前に置く、と考えれば良いでしょう。発音では、Hの文字は発音しません。ですから、フランスで良く見かけるホンダ HONDAの車は「ホンダ」ではなく「オンダ」と呼ばれたりします。また、単語の語末の子音字は発音しないという原則があります。ところが、フランス語では、単語レベルではなく文レベルになると、その発音しない語末の子音字が、次に母音または無音のHで始まる語が続く場合、これと連結して発音されることがあります。これによっても、フランス語の流れるような感じが醸し出されていると言えるでしょう。よく「フランス語の発音は難しそう」と言われるのを耳にしますが、日本人にとっては英語より簡単と言えます。フランス語は母音(+鼻母音)が16で子音が17なので、区別しなければならぬ音の数が英語より少ないことと、フランス語の発音に伴う舌の位置は、英語よりも前寄り、より日本語に近いのです。

*La Gaule ayant fait partie de l'Empire romain, le français au même titre que l'italien, le portugais, l'espagnol ou le roumain appartient à la grande famille des langues romanes, issues du latin. Ces langues, outre une parenté lexicale évidente, ont donc de nombreux points grammaticaux en commun. Ainsi, les déterminants, les noms et les adjectifs varient en nombre et en genre. Les verbes se conjuguent. La structure habituelle des phrases est la suivante : Sujet + Verbe + Complément(s).*

*Langue des élites européennes pendant plusieurs siècles, le français a été la langue de la diplomatie et aujourd'hui, il conserve un rôle important comme langue de travail dans diverses organisations internationales telles que l'O.N.U., l'Union européenne, l'Union postale universelle ou bien sûr l'Organisation internationale de la Francophonie (O.I.F.) qui regroupe 56 pays membres parmi lesquels la Belgique, la Suisse, le Canada, les pays du Maghreb, de nombreux pays d'Afrique noire comme le Congo, la Côte d'Ivoire ou le Cameroun.*

*De 1921 à aujourd'hui, c'est-à-dire dès la fondation de l'École des Langues étrangères d'Osaka, devenue Université des Langues étrangères d'Osaka en 1949, puis Faculté des Langues étrangères de l'Université d'Osaka en 2007, le français n'a cessé d'être enseigné comme langue de spécialité.*

*Les étudiants accueillis doivent assimiler les bases de la langue au cours des deux premières années grâce à des cours de grammaire, de lecture, d'écriture, de laboratoire de langue et de conversation. Ensuite, ils ont deux ans pour approfondir des matières de spécialité comme la linguistique, la littérature, l'histoire, l'économie, la société, etc.*

*Ceux qui le désirent peuvent compléter leur formation en partant étudier dans un des nombreux établissements avec lesquels nous avons des accords d'échange en France ou en Belgique.*